



# 公明こうべ

2023年  
vol.2

発行：公明党神戸市議員団 神戸市中央区加納町6-5-1 <http://www.kobe-komei.net>



## 制度のはざまで苦しむ人を救う

公明党神戸市議員団は4月の市議員選挙で新人5人を含む12人の新体制でスタート。さっそく5月市会では在宅末期がん患者の支援拡充や不登校でフリースクールに通う家庭の経済支援など「小さな声」を地道に取り上げる質問を展開しました。その他中小企業の収益性、給与アップのためのリスクリング(新たな技術・知識を学ぶ)への補助やコミュニティバス支援、男子トイレへのサニタリーボックス設置などを提案しました。

### 医療 在宅末期がん若年者への 支援を拡充

在宅末期がん患者を支える家族を救いたいという思いを2月本会議の質問で訴えました。

その結果、神戸市では若年者の在宅ターミナルケア支援事業の対象年齢を20歳から18歳へと引き下げるとともに訪問介護・福祉用具貸与の1ヵ月サービス利用料の助成上限額を6万円から10万円にアップ。さらに一人あたり上限10万円以内で福祉用具の購入にも使えるようになりました。

#### 支援対象年齢

20歳～40歳未満 ▶ 18歳～40歳未満

#### 助成上限額

6万円 ▶ 10万円

さらに



一人あたり上限10万円以内で福祉用具も購入可



## 『BE KOBE』モニュメントMAP

『BE KOBE』は、阪神・淡路大震災から20年目の2015年、「人のために力を尽くす」という市民の熱い想いを集めて「市民は神戸市民であることを誇りに思う気持ち」を表しています。

現在、市内4カ所にモニュメントが設置されフォトスポットになっており、ロゴを使用した商品やサービスは現在300件にのぼります。本年7月には垂水区のアジュール舞子海水浴場にも設定予定です。

『BE KOBE』を巡る観光やサイクリングはいかがでしょう。



市政へのご意見・ご相談は下記の各区所属議員にお問い合わせ下さい。



東灘区

岩佐 健矢  
TEL.080-7994-4645  
iwasa.kenya@gmail.com



灘区

高瀬 勝也  
TEL.080-6209-7704  
takasa.katsuya@gmail.com



中央区

萩原 泰三  
TEL.080-7994-4627  
hagiwara.taizo@gmail.com



兵庫区

菅野 吉記  
TEL.080-6209-7711  
yoshinori@sugayan.jp



北区

徳山 敏子  
TEL.080-6209-7712  
toshikotuyama@gmail.com



北区

堂下 豊史  
TEL.080-4363-9251  
doshita.toyoji@gmail.com



長田区

坂口 有希子  
TEL.080-7674-6456  
sakaguchi.akiko2022@gmail.com



須磨区

門田 まゆみ  
TEL.070-3182-6213  
kadota.m.komei@gmail.com



垂水区

壬生 潤  
TEL.080-6209-7707  
mibujun@gmail.com



垂水区

細谷 典功  
TEL.080-7674-6455  
hosoya.kobe@gmail.com



西区

吉田 謙治  
TEL.080-6209-7700  
yoshida.kenji@gmail.com



西区

宮田 公子  
TEL.080-7674-6451  
kimikomiyata0120@gmail.com

## 教育 不登校でフリースクールに通う経済負担を支援

神戸市内公立小中学校の不登校児童・生徒は平成27年からの5年間で、小学生で2.4倍、中学生で1.5倍と増えています。そのため不登校対応の特例校設置の検討を始めるなど対策を強化しているところだ。



一方、公立学校の代わりに民間のフリースクールが不登校の子どもたちの教育を支える重要な役割を果たしていますが、授業料の負担が大きな課題になっています。本来義務教育は無償であり、不登校の原因が何であれ子どもの教育を受ける権利を守る



## 福祉 サニタリーボックスを男子トイレにも

男性の前立腺がん等の術後や加齢による尿漏れパットの使用、性的マイノリティの方が生理用品を使用しているため、男子トイレにもサニタリーボックスを設置して欲しいとの要望が多くある中、神戸市では市役所1階のトイレと各区役所トイレへの設置に留まっています。



小原副市長は「庁舎以外の市の公共施設への設置を進めて行く」と表明しました。

## 交通 コミュニティバスの安定経営をITの力で

コミュニティバスが市内各地で広がりを見せる中、更なる拡充が求められています。そのためには収益を上げる必要があります。導入されている2タッチデータやIT技術を使って利用者が増加するシステムを構築する、DX化を進めるべきであると提案しました。

ことが第二であった。フリースクール等の費用支援を行うよう求めました。長田教育長はこれに対し「民間フリースクールの実態やそこに通う生徒数などを把握すること」を表明し、国に対して経済的支援を要望していくことを約束しました。

## 経済 中小企業のリスキリングに補助を

神戸市内では就業人口の約7割が中小企業に勤務。これら中小企業の収益性と従業員の賃金をアップするため、従業員のリスキリング（新たな技術・知識を学ぶ）に補助することを提案しました。



これに対し久元市長は、「リスキリングの取り組み状況は、大手企業の約60%に対し、中小企業では46%に留まっており、理由としてコスト負担が大きいと言われている。市内中小企業のリスキリングが進められていくように神戸市としても全力で取り組んで行きたい」と力強く答弁しました。



垂水区塩屋地域コミュニティ交通「しおかぜ」

久元市長は「地域コミュニティ交通の導入には力を入れている。地域の実情を適切に把握し、利用実態に応じてコミュニティバスを運行している。非常に重要な施策であり、提案も踏まえて取り組んでいきたい」と応じました。

## 観光 港・山・食・温泉を楽しむ自転車ルートを

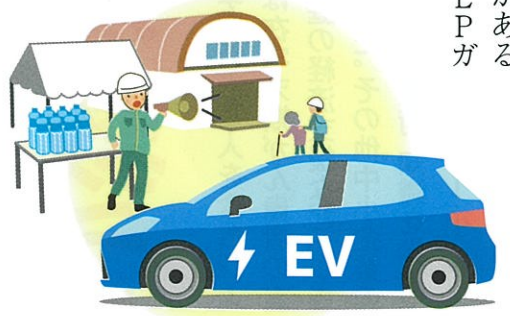


## 防災 災害時における電源確保の拡充を図れ

神戸市では災害時に電動車を避難所へ接続し、電気を使える様に「外部給電・神戸モデル」として先進的に取り組んできました。しかし、どのように自動車を提供するのか、また、車が避難所へ到達できない場合に蓄電池や太陽光、小水力発電等、様々な方法で備えるべきではと質問しました。

久元市長から「市内で約250台の車両を確保している。令和3年度から、迅速に車両を派遣することができるマッチングアプリの実証実験を行っており、今年度中に実用化を目指している」と答えました。

また、小原副市長から「小型ガス式の発電機、蓄電池など非常用電源を小中学校に配備し、孤立する可能性がある山間部の学校には、LPガス発電機も設置した。太陽光発電は、小中学校等において、現在263校中113校に設置している。今後も災害時の電力確保をより一層進めていく」と力強い答弁がありました。



健康のためなど自転車への関心が高まっており、観光需要の観点からも、神戸市内の幅広い層に訴えかける自転車モデルの策定を求めました。また、神戸でのロードレース誘致も訴えました。

久元市長は「自転車活用のためにモデル的にサイクリングロードを設定し、様々なサイクリングマップを作成する事は有効な手段である。また最近注目されているマウンテンバイクのモデルロードを設定し、市外からも来て頂ける取り組みを加速したい」と答弁しました。

## 生活 民法改正で隣家の枝払い可能に

隣家の樹木の枝が敷地境界を越えて起きる近隣紛争で困る市民が少なくありません。ようやく本年4月の民法改正で、樹木の所有者に通報しても対処しない場合、自ら枝払いができることになりました。

この内容について市民にわかりやすく広報するよう市に求めたところ、小原副市長は「市民が円滑に制度を活用できるようわかりやすく周知に努めていく」と答弁しました。具体には市の法律相談窓口で。





## 危険で迷惑な空き家を手を打つ

公明党市議団は、令和4年度決算審査を通じて、どこまでも生活者目線で空き家対策、教育、障がい、医療など市民の生活を守り、すべての人が住みやすい「こうべ」の実現をめざし訴えました。

荒れ果てた空き家が近隣に迷惑をかけているという相談が増えています。

壁は崩れ瓦が今にも落ちそうで、敷地内にゴミの不法投棄、害虫やいたち、ねずみなどの棲家になっている。そんな困った空き家が神戸市内に約5000戸。

所有者が適正に管理すべきものですが、所有者に連絡が取れない場合が多く、対策が困難な状況です。このような危険で周囲に迷惑をかけている空き家を「特定空き家」と呼び、このようになるまで放置せず、管理が不十分な空き家を「管理不全空き家」として市が把握し、強力的に指導するよう求めてまいりました。

本年6月には国会議員と協力のもと「空き家対策特別措置法」の改正を促し、「管理不全空き家」への「指導」しのできなかったところ、具体の対策を強力的に所有者に迫る「勧告」制度を設けました。

この度の決算市会で市としての今後の対応を質したところ久元市長は、過日の法改正を踏まえ勧告制度を速やかにスタートさせるとともに、使えない空き家の解体を促進する補助制度など対策の拡充に努めると明言しました。

※今月号より本文にユニバーサルデザインフォントを使用しています。

## バリアフリートイレに大型多目的シート設置を進める



障がいのある子どもを持つ方から、外出先に大型多目的シートがなければ、車の後部座席や公園でレジャーシートを敷いておむつを替えることもあるなど、とても不便な状況をお聞きしました。そこで、設置を進めるには、多くの部署が関係するため、福祉局が旗振り役となってはどうかと本会議で提案しました。

久元市長は、公明党市議団の提案通りに福祉局が中心となって順次進めたいと前向きな答弁をしました。

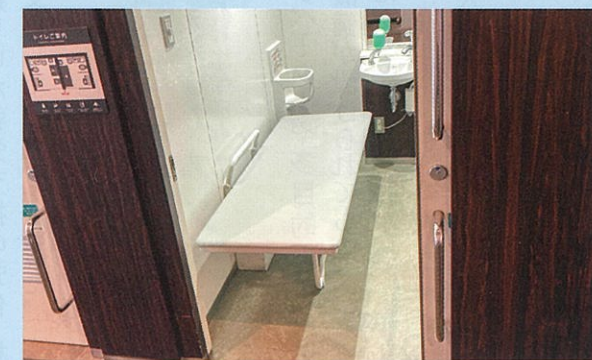
それを受けて、新神戸駅、グリーンアリーナ神戸に先行して設置工事を行うことになり、来年に神戸で行われる世界パラ陸上の会場では大型多目的シートを仮設で設置することに決まりました。

### 大型多目的シートとは

乳幼児がおむつを交換するベビーシートではなく、子どもから大人まで、また高齢者の介護にも使えるシート



市役所1号館・1階トイレの大型多目的シート



大型多目的シートを展開した状態

## 市政へのご意見・ご相談は下記の各区所属議員にお問い合わせ下さい。



東灘区

岩佐 健矢

TEL.080-7994-4645  
iwasa.kenya@gmail.com



灘区

高瀬 勝也

TEL.080-6209-7704  
takata.katsuya@gmail.com



中央区

萩原 泰三

TEL.080-7994-4627  
hagiwara.taizo@gmail.com



兵庫区

菅野 吉記

TEL.080-6209-7711  
yoshinori@sugayan.jp



北区

徳山 敏子

TEL.080-6209-7712  
toshikotokuyama@gmail.com



北区

堂下 豊史

TEL.080-4363-9251  
doshita.toyoji@gmail.com



長田区

坂口 有希子

TEL.080-7674-6456  
sakaguchi.akiko2022@gmail.com



須磨区

門田 まゆみ

TEL.070-3182-6213  
kadota.m.komei@gmail.com



垂水区

壬生 潤

TEL.080-6209-7707  
mibujun@gmail.com



垂水区

細谷 典功

TEL.080-7674-6455  
hosoya.kobe@gmail.com



西区

吉田 謙治

TEL.080-6209-7700  
yoshida.kenji@gmail.com



西区

宮田 公子

TEL.080-7674-6451  
kimikomiyata0120@gmail.com

**地域**  
**地域猫活動を応援**  
**捕獲器・エサを提供**

野良猫によるトラブル解消と殺処分ゼロを実現するため、公明党市議団の提案で制定した「神戸市人と猫との共生に関する条例」(平成29年4月1日施行)により、かつて年間1000頭を超えていた殺処分も数十頭まで減少し大きな成果をあげてきました。これは、公衆衛生上の重要な取り組みであり今後の進め方や動物愛護活動の充実について市の考えを質しました。

小原副市長は、一部活動の制約となっていた地域猫活動団体の自治会等の承認も苦情のない場合は省略できるようにするとともに、今後地域団体と理解を深め合う場を設けていくと明言。また、猫の捕獲器や捕獲用のエサを無償で提供することを表明しました。



**福祉**  
**不妊治療にかかる**  
**先進医療の助成を!**

昨年4月から一部の不妊治療が保険適用の対象となりましたが、不妊治療におけるより高度な先進医療については、保険適用外のため県に強く働きかけ助成を行うよう訴えました。

小原副市長は、今年度から県が設置した不妊治療支援検討会に神戸市も参画し、実態調査を行っており、その結果も踏まえて県と協調して必要な支援策を検討してまいります。今後も、経済的負担の軽減だけでなく、子供を授かりたいと願う方に様々な面で寄り添った支援を行っていききたいと答弁しました。



**福祉**  
**精神障がい者の就労支援・**  
**医療費助成を求め!**

精神障がい者の就労促進に取り組んできましたが依然として状況は厳しいため、市として雇用主の協力を促すさらなる取り組みを求め

て動物共生センターでの体験型プログラムの強化や動物愛護のイベント実施などにも力を注ぐことを約束しました。

**教育**  
**公立中高一貫教育で**  
**一人一人の才能伸ばす**



大学入試制度が大きく変わりつつあります。個々の才能を育み人との協力のなかで課題を解決し価値を創造していく教育を目指しています。この目標にそって公立学校の教育も変革をしていくべきとし、公立中高一貫教育の実現を訴えました。

すでにさいたま市や横浜市では中高一貫校が設立され、英語成績が全国トップになったり、充実した科学教育が行われたりして注目をあびており、人口増にも貢献しています。

長田教育長は、成果を上げている中高一貫教育の先進的な取り組み事例について調査し、設立に向け検討すると応じました。

**福祉**  
**障がい者・高齢者に**  
**便利なマップを提供**



また同じ障害2級でも身体・知的障害とは生活実態の異なる「精神障害2級」への重度障害者医療助成の適用を求めました。これに対し小原副市長は、当面拡大は難しいが就労支援の強化、相談窓口の充実で支援したいと答えました。

エレベーターや多目的トイレなどのバリアフリー設備が設けられてもどこにあるか場所がわからず、体力的にも精神的にも大きな負担となっています。そこで市内施設のバリアフリー情報を地図上にまとめた誰もが使いやすい「ユニバーサルデザイン



**ブラッドパッチ療法の保険適用を拡充**

脳脊髄液漏出症(減少症)は、交通事故やスポーツ時の衝撃等によって脳脊髄液が漏れ出すことが原因となり、頭痛、めまい、不眠など様々な症状を引き起こす病気です。治療方法は、血液が固まることを利用して、患者自身の血液を注入し髄液が漏れている部分を塞いでいくブラッドパッチ療法が用いられ、2016年4月から保険適用となりました。一方、保険適用を受けるには、患者が立ち上がる際に強い頭痛が生じて立ち上がることが出来ないことが条件にあることから、立ち上がる際に頭痛を伴わない患者は適用外となります。

同じ病気でも症状によって保険適用の有無があることは改善すべきと、「ブラッドパッチ療法における保険適用の要件緩和及び診療報酬の評価改定を求める国への意見書」を公明党市議団が他会派へ呼びかけ議会に提出し、全会一致で採択しました。



「シママップ」を作成してはどうかと提案しました。小原副市長は、地図を提供している民間のアプリなどを参考に、作成を進めていくと答弁しました。

近畿の政令市で  
**トップ**

**こども医療費** 令和5年10月から  
**高校生の通院費が軽減**



これまで高校生の通院費は3割負担でしたが、中学生と同じく医療機関、薬局ごとに所得制限なしで令和5年10月から1日最大400円になりました。公明党が継続して負担軽減を訴える中、近畿の政令市で一番進んでいます。

■自己負担額		(所得制限なし)	
対象	通院治療費	入院治療費	
0～2歳	自己負なし	無料	
3歳～高校生*	1日最大400円を月2回まで (3回目以降は無料)	無料	

※18歳到達後、最初の3月31日までの方で高校などに通っていない方も対象

**助成を受ける方法** 原則、手続きは不要で新しい受給証が対象者に届いています(申請が必要な方には、案内チラシが送られています)



# 公明こうべ

2024年 vol.1

発行：公明党神戸市会議員団 神戸市中央区加納町6-5-1 <http://www.kobe-komei.net>



## 子ども・若者世代の意見を市政にいかす

公明党市議団は12月議会で、令和6年に向け物価高から市民のくらしを守り、子育て・教育施策の充実をはじめ、ワクチン接種の推進や女性の活躍する場づくりなど市民の声に応える政策の実現を目指し論戦を展開しました。

子どもや若者ならではの自由な観点や斬新な発想を市政に取り入れることは、これからの地域活性化に重要であり、まず取り組みやすい身近なテーマについて、若者が意見を出し合える場をもっと設けていくべきではないかと訴えました。また、次期・神戸市総合基本計画に若い世代の意見を反映するよう強く求めました。

久元市長は、神戸の未来をテーマにした大学生との対話フォーラムの開催など対面での意見交換の場の創出に加え、学習用端末での小中学生への給食に関するアンケートなどデジタルツールを活用したオンラインの意見交換の場を拡大することで、若年層の意見を積極的に取り入れていくと表明しました。



※本文にはユニバーサルデザインフォントを使用しています。

### 経済 地元プロスポーツ チームとともに まちの活性化を

ヴィッセル神戸のJリーグ初優勝の盛り上がりを一過性のものにせず、女子プロサッカーチームのアイナック神戸レオネッサを盛り上げていくためにも、市として協力支援体制の強化が必要ではないか、また、相乗効果による地元商店街や小売市場の活性化の取り組みについて後押しするよう訴えました。

今西副市長は、チームと商店街が連携して行うイベントや販売の取り組みを市としても幅広く支援し賑わいを創出していきたいと答弁しました。



2023年11月26日 INAC神戸レオネッサ 選手等身大パネル

### いち早く市民生活に支援を届ける

## 1世帯あたり7万円給付(住民税非課税世帯)

国の物価高対策の一つとして、まず家計の使えるお金を増やすために住民税非課税の低所得世帯向けに1世帯7万円を給付します。

公明党市議団が昨年11月に久元市長へ、7万円給付の迅速な対応も盛り込んだ「物価高騰対策と経済再生に向けた提言」を行いました。12月の本会議において補正予算を可決し、速やかにお手元に届けるための準備をはじめました。

支給対象は、令和5年12月1日に住民登録している世帯全員の令和5年度分住民税均等割が非課税の世帯です。本年1月下旬には、振り込まれ

る予定です。(令和5年12月14日現在) また、中間所得者世帯向けの対策として、所得税・住民税1人当たり4万円の定額減税は6月に実施する予定です。



支給対象	支給額	開始予定
低所得世帯 ▶	7万円 (現金支給)	令和6年 1月
中間所得世帯 ▶	4万円 (定額減税)	令和6年 6月

(令和5年12月14日現在)

### 市政へのご意見・ご相談は下記の各区所属議員にお問い合わせ下さい。

- |   |  |   |  |   |  |
|---|--|---|--|---|--|
| <br>東灘区<br>岩佐 健矢<br>TEL.080-7994-4645<br>iwasa.kenya@gmail.com          | <br>灘区<br>高瀬 勝也<br>TEL.080-6209-7704<br>takase.katsuya@gmail.com   | <br>中央区<br>萩原 泰三<br>TEL.080-7994-4627<br>hagiwara.taizo@gmail.com | <br>兵庫区<br>菅野 吉記<br>TEL.080-6209-7711<br>yoshinori@sugayan.jp  | <br>北区<br>徳山 敏子<br>TEL.080-6209-7712<br>toshikotokuyama@gmail.com | <br>北区<br>堂下 豊史<br>TEL.080-4363-9251<br>doshita.toyoji@gmail.com   |
| <br>長田区<br>坂口 有希子<br>TEL.080-7674-6456<br>sakaguchi.akiko2022@gmail.com | <br>須磨区<br>門田 まゆみ<br>TEL.070-3182-6213<br>kadota.m.komei@gmail.com | <br>垂水区<br>壬生 潤<br>TEL.080-6209-7707<br>mibujun@gmail.com         | <br>垂水区<br>細谷 典功<br>TEL.080-7674-6455<br>hosoya.kobe@gmail.com | <br>西区<br>吉田 謙治<br>TEL.080-6209-7700<br>yoshida.kenji@gmail.com   | <br>西区<br>宮田 公子<br>TEL.080-7674-6451<br>kimikomiyata0120@gmail.com |

## 子育て 「こどもホスピス」の設立 外出が難しい病児に 楽しい思い出を

重い病気を抱えていても子どもは遊びたい！  
楽しみたい！と願っています。

本年、国は外出が困難な病児やその家族が安心して日帰りや宿泊できる「こどもホスピス」の実態調査を行うことになっています。神戸市の子育て支援において「こどもホスピス」の意義を広く訴え、設立への後押しをすべしと質しました。

小原副市長  
は、子どもと親が笑顔になる場所は大切であり、「こどもホスピス」設立を希望する方に対して広報など可能な支援をしたいと答えました。



## 子育て 低出生体重児への 就学猶予制度の周知を

生まれた時の体重が2500g未満の低出生体重児や1000g未満の超低出生体重児は、病弱や発育不全などの理由で、小学校の入学を遅らせる事が出来る「就学猶予」という制

## 福祉 子宮頸がんの撲滅へ 男性にもワクチン接種を

全国で子宮頸がんにより年間、約1万人超の女性が罹患し、3000人近くが亡くなっています。子宮頸がんの主な原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)のワクチン接種の積極的勧奨が再開され、さらに、男性にも接種することで陰茎がん、肛門がんなどHPV関連の病気から本人を守るとともにパートナーへの感染を防ぐ効果も期待されています。

そこで、無料の定期接種が、小学6年〜高校1年相当の女子のみとなっている中、男性の無料接種を進め、停滞する女性接種への追い風につなげるべきと提案しました。

小原副市長は、子宮頸がんの予防にはワクチン接種と検診が有効であるため、さらなる周知に努めていく。男性への無料接種は国の動向を踏まえた上で対応していきたいと答弁しました。



## 福祉 带状疱疹ワクチン 接種の助成を求める

近年、带状疱疹患者が増加する傾向にあり、特に50歳代から発症率が増え、80歳までの3人に1人がかかると推定されています。



度があります。超低出生体重児の保護者が就学猶予を利用したいと市に求めた所、前例がなく、病児学校や支援学校があるので、遅らせる事はしていないとの回答があり、利用が出来なかったとの相談がありました。そこで、今後この様なつらい思いをする親子が出ない様、制度の意義と手続きの丁寧な説明を求めました。

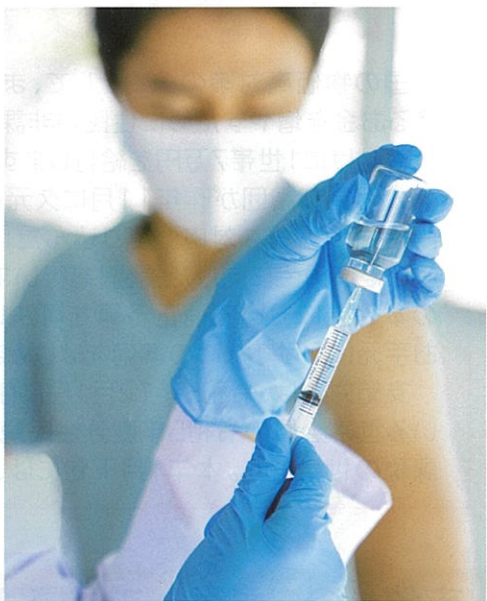
長田教育長は、今後ホームページでの制度掲載や、こども家庭局と連携した入学前の周知に努めると答弁しました。

## 教育 学校内に安心できる 居場所をつくる

本市の不登校児童生徒数は令和3年度3062名から令和4年度では4230名と大幅に増えています。



全国でも同傾向の中、国は令和5年3月に「不登校支援の充実に向けた基本方針(CO-COLOプラン)」を策定し、学校への登校のみを目標とはしない基本的



予防として50歳以上の方にウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬の早期投薬が効果的と言われており、そのワクチンを接種することで、発症予防、重症化予防が期待出来ます。

但し、ワクチン接種費用が、8000円から4万円程度と個人負担が大きく、接種したくても出来ないという声を聞いています。そこで、本市として带状疱疹ワクチン接種助成について検討を進めるよう求めました。

小原副市長は、本市として令和6年度国家予算に対して带状疱疹ワクチンの早期定期接種化を要望しており、国においても接種費用に関して審議されていることから、国の動向を見極めていきたい。また带状

**带状疱疹とは** 多くの方が子どもの頃にかかっている水痘(みずぼうそう)ウイルスが体内で長期間潜伏感染し、免疫が低下した際などに発症するもの。高齢者の中には、皮膚の水膨れや発疹が治っても痛みが続き、带状疱疹後神経痛になる方も多いと言われている。

な考え方を掲げつつ、行きたくなる学校づくり、早期の兆候把握や早期支援に取り組むように指針を示しました。そこで、本市においても行きたくなる学校づくりの二つの対策として、学校内に安心できる場所を提供することに取り組みをすべしと質しました。

長田教育長は、登校しても教室に入れない子どもたちの居場所となる「校内サポートルーム」の設置を進めており、令和5年度で中学校に設置が完了するが、小学校では162校中21校のみにとどまっているため、速やかに増やしてくと応じました。さらに教室への復帰を目標とせず、過ごしやすさを重視し、落ち着いて個別学習に取り組めるようパーティションの設置などハード面の充実にも取り組むと答弁しました。

## 神戸初！ 路線バス維持へ 女性運転手を採用

高齢化などで全国的に運転手不足が深刻な問題となっています。市でもバス路線維持に運転手確保が急務となっていることから、女性の採用が必要であり、応募を促すための支援策を設けるように訴えたところ、市バスの運転士となるために必要な、大型二種免許を取得する費用を全額助成する新しい制度が創設されました。令和5年度から女性枠を設け、専用の休憩室や仮眠室を整備し2名の採用が実現しました。

疱疹の早期発見、早期治療を進めるため、本市ホームページ等で予防や治療の情報を市民に周知できるよう取り組んでいると答弁しました。

## 介護 子育てだけじゃない 介護の不安もない神戸へ

高齢化の進展により働きながら親などの介護をする「ビジネスケアラー」が増加しています。介護が理由の離職や、それによる経済状況の悪化などの問題をはじめ、どこに相談すればよいかかわからず介護者の孤立も表面化していることから、介護を担う世代に相談窓口の周知を強化する必要があると訴えました。

久元市長は、介護等を相談する「あんしんすこやかセンター」が市内76カ所設置されており、平日だけではなく土日いずれかも開所している。周知については神戸市のホームページだけでなく、銀行やコンビニ、商業施設にもチラシを置き、企業への周知も進めている。さらなる広報の手段を検討していくと回答しました。



# 带状疱疹ワクチン助成の 早期実現を要望！



久元喜造・神戸市長宛緊急要望書を小原一徳副市長に手渡す

皮膚の痛みやかゆみで悩ませる带状疱疹。  
発症率が上がる50歳以上の方にはワクチンの接種で発症予防や  
重症化予防が期待できると言われています。  
しかし接種費用が高額であるため接種したくてもできないとの声があり、  
昨年12月の議会質疑でも助成を求めました。  
この度、県会公明党の働きかけで兵庫県が市の助成を前提に  
県も助成を検討することになり(神戸新聞令和6年1月27日付朝刊)、  
県と協調して来年度から助成を行うよう久元喜造神戸市長に緊急要望を行いました。

## 兵庫県の 検討案

- 対象者 / 50歳以上(接種日現在)
- 所得制限 / なし
- 補助額 / 県・市とも2,000円/回(1回限り)
- 補助回数 / 1回
- 実施 / 令和6年度



特別給付金

10万円

18歳未満

5万円

定額減税

4万円

いつから?  
対象者は?



長期化する物価高から暮らしを守るため、「暮らし支援臨時特別給付金(10万円)」と一人につき4万円の定額減税(所得税3万円・住民税1万円)が実施されます(年収2,000万円超は対象外)。また住民税非課税もしくは住民税均等割りのみ課税世帯で18歳以下の子育て世帯にはこども一人当たり5万円の支給も行われます。

## 定額減税と低所得者支援に関する全体のイメージ

対象世帯	支援内容	給付・減税時期
住民税・所得税課税	納税者と配偶者を含む扶養家族一人あたり <b>4万円(所得税3万円、住民税1万円)を定額減税</b>  例 父(納税者) + 母(配偶者) + 子ども(扶養) =12万円(4万円×3人)減税	2024年 6月より開始
住民税非課税世帯	既に支給された3万円に加え <b>7万円を追加給付</b>	2024年1月17日 給付開始
住民税均等割のみ課税世帯	<b>10万円給付</b>	3月末頃 給付開始
4万円未満の減税	4万円分、減税しきれない差額を <b>1万円単位で給付</b>  例 2万9,000円分のみ減税された場合 4万円との差額1万1,000円を切り上げて <b>2万円給付</b>	2024年に入手可能な課税情報をもとに 2024年 8~9月頃 給付開始 (※自治体によって、給付時期に差あり)

問い合わせ

「神戸市暮らし支援臨時特別給付金」  
専用コールセンター

TEL: 078-771-7201

●受付時間：午前9時～午後5時30分（土日祝を除く）

※本給付金詳細は神戸市暮らし支援臨時特別給付金ホームページで確認できます。

神戸市暮らし支援臨時特別給付金

検索

<https://www.city.kobe.lg.jp/a38463/311044405356.html>

